

# 【クレーム情報】

## ボタンの溶解

ボタンは洋服にあわせてデザインされているものも多く、ブランド物などでは、ボタン1個のために製品全体の補償を要求される事例も現実には発生している。

ボタンの中でも、特に注意を必要とするものに、皮革ボタンや後染ボタンなどの色落ち、<sup>※</sup>組み合わせボタンの分解などがあるが、今回は、ボタンに使われているプラスチックが溶解した事例を紹介する。

### 原因

プラスチックの素材がポリスチレン樹脂であったため、テトラクロロエチレンによるドライクリーニングで溶解したものの。

ポリスチレン樹脂は、石油系溶剤によるドライクリーニングでも溶解する。

### 事故の防止対策

ボタンの素材としてポリスチレン樹脂は使用しないこと。

日本では、昭和40年代にボタンの溶解事故が社会問題となり、その対応としてポリスチレン製のボタンは製造販売が中止されている。事故品の原産国表示は、トルコとなっており、販売元に確認したところ、フランスのメーカーから輸入したもので、ドライクリーニングで溶解するようなボタンが使われていたことには気が付かなかったとのこと。

### 溶剤管理

一般的に、ボタンの取扱いについては、高温高圧を避け、耐ドライクリーニング性をチェックするなどの注意が必要で、トラブルの防止を優先するのであればボタンは取り外して処理することが望ましい。

ボタンカバーやアルミホイルでの保護は、乾燥時などにボタンから生地へ色が移染することの防止や、分解した組み合わせボタンの部品の紛失防止には有効だが、溶剤が中にもりボタンの染色などに影響を与えることなど、マイナス面があることも配慮すること。

### 事故防止システムで検索

日本繊維製品・クリーニング協議会が運営する「クリーニング事故防止システム」でボタンの事故を検索すると8件の事故情報が確認できる（6月3日現在）。

現在、クリーニング事故防止システムのデータベースには、4800件以上の検索データが登録されており、その中でボタンに関する情報はわずかに8件だが、油断はできない。先にも述べた通り、ブランド物などでは、ボタン1個のために製品全体の補償を要求される事例も現実には発生している。

ある日突然、クリーニングで溶解するボタンが持ち込まれるかもしれない。装飾用のビーズにも、ドライクリーニングで溶解するポリスチレン製のものがいまだに使われていることがあり、事故防止システムにも事例が登録されている。

様々に予想されるトラブルを防止するために、クリーニング事故防止システムが積極的に利用されることを希望する。

※組み合わせボタン：プラスチックと金属など複数の部材を組み合わせたボタンのこと。今回紹介したボタンも「組み合わせボタン」の一種である。



婦人カジュアルウェアで、原産国表示はトルコ。  
ボタンは洋服の各所に用いられている



複数のプラスチック部材を組み合わせたボタン。ポリスチレン樹脂で出来た、中央乳白色のプラスチック部分が溶けたようになっている

- 品 名…婦人用アンサンブル
- 素 材…本 体：綿 50%、アクリル 50%  
ボタン：複数のプラスチック部材を組み合わせた構造で、中央の部材はポリスチレン樹脂。
- 取扱い絵表示    
- 処 理 方 法…テトラクロロエチレンによるドライクリーニング
- 事 故 の 状 態…中央に組み込まれた乳白色のプラスチック部材が溶解している。